

企業を支える人材を創る“新入社員研修”を!

(有)エファ 菊地理恵社長が教える、4つのポイント



3月16日(金)に開催された、当社主催の新入社員講習会(講師は菊地社長)

ポイント2 全体が把握できるように指導する

「前のポイントに出た〈納得〉とも関係しますが、電話応対ひとつとっても、「こうやれ、あやれ」では、ダメなのです。そういうことがなぜ重要なのか、仕事の流れの中でどういう意味があるのかなど、常に全体を把握できるような教え方が、大切です」

もちろん、まずはやらせてみて、しばらく経つてからその意味を教えるというやり方もあります。その場合でも、後で教える際に、できるだけ全体が把握できる教え方が必要です。

ポイント3 関連して指導する

「仕事というのは、ほとんどがお互いに関連しているものです。よく「1を聞いて10を知る」と言いますが、1という〈点〉を身につけた人が、そこから別の〈点〉を理解できるようになるには、関連性を理解しないと難しいでしょう。身に付いた〈点〉同士を結びつけられれば、〈点〉が〈線〉になり〈面〉に変わって行きます。そういうことができるような指導が、大切です」

菊地社長が心がけているのは、人の持つ〈見る力(観察力)〉と〈聴く力(傾聴力)〉を引き出すこと。観察すること、考えること、気づくことができる人間にならうことが、指導の目的のひとつだと、菊地社長は言います。

「自分の体験からさまざまな例を出して教えるのも、効果的です。教科書的ではない、現場から出た実例には、若い人たちも興味を持つて聞いてくれます」

ポイント4 アフターフォローが重要

「成功例よりも失敗例の方が、受け入れられやすいですね。自慢話にはならないからでしょう。仲間同士でも自慢話は嫌われるものですね。ましてや上下の関係では、成功例は自慢、ととられかねません」

「自慢話」ととられかねないこともあります。

「成功例よりも失敗例の方が、受け入れられやすいですね。自慢話にはならないからでしょう。仲間同士でも自慢話は嫌われるものですね。ましてや上下の関係では、成功例は自慢、ととられかねま

社員教育は経営者にとって、いつでも大きな問題です。特に新しく入ってきた若者たちを、どうやって一人前の社会人、会社人に鍛えていくか——ご苦労なさっている方も多いのです?

そこで、人事戦略コンサルティングの一環として社員研修を手がける、(有)エファの菊地地理恵社長に、必須ポイントをうかがいました。

ポイント1 「理解させる」ではなく「納得させる」指導が大切

ポイント2 全体が把握できるように指導する

ポイント3 昔話、自慢話は禁物

ポイント4 アフターフォローが重要

ポイント1 「理解させる」ではなく「納得させる」指導が大切

ポイント2 全体が把握できるように指導する

ポイント3 昔話、自慢話は禁物

ポイント4 アフターフォローが重要



(有)エファ 菊地地理恵社長